2022年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

3月	【3月23日(水)】2022年度事業計画説明会開催（オンライン） 大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明（企業・団体向け）
4月	【上旬】受入依頼状等を企業・団体に発送 インターンシップ研修生受け入れの可否及び インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について照会 【4月22日(金)】受入可否・合同説明会参加可否回答締め切り 上記案内書類（アンケート等）の回答締め切り
5月	【5月28日(土)】合同説明会開催（オンライン）
6月-7月	【6月下旬】各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送 【6月下旬～7月上旬】企業・団体の学生面接 学生の研修希望先での面接
8月-9月	インターンシップ研修
9月	【上旬】研修先企業・団体にアンケート送付
11月-12月	拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

愛媛大学
教育学生支援部就職支援課

〒790-8577 松山市文京町3番
TEL 089-927-9164(直)
FAX 089-927-9181
www.ehime-u.ac.jp/

松山大学
教務部教務課

〒790-8578 松山市文京町4-2
TEL 089-926-7137(直)
FAX 089-923-8920
www.matsuyama-u.ac.jp/

松山東雲女子大学
松山東雲短期大学
キャリア支援課

〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1
TEL 089-913-2610(直)
FAX 089-931-6402
college.shinonome.ac.jp/

聖カタリナ大学
学生部就職課

2022年度 事務担当校

〒799-2496 松山市北条660
TEL 089-993-0731(直)
FAX 089-993-0717
www.catherine.ac.jp/

編集・発行／大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会
インターンシップ・プログラム実施報告書
Internship Program Report 2021

大学コンソーシアムえひめ インターンシップ部会

インターンシップ・プログラム
実施報告書

Internship Program
Report2021

ごあいさつ

２０２１年度のインターンシップ研修実施の御礼と来年度以降の取り組みへのご協力のお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会　２０２１年度部会長　東渕 則之
松山大学経営学部　教授

平素より、企業・団体の皆様におかれましては、学生の教育や採用に際し、私ども愛媛県内の大学・短期大学に多大なるご支援を賜りまして、誠に有り難く存じます。

２０２１年の夏は、当時では過去最大の第5波が8月に押し寄せ、愛媛県にもまん延防止等重点措置が適用され、不要不急の外出を自粛すべきとの空気が地域社会を覆いました。折悪しく、インターンシップ研修の最盛期と重なりました。研修生受入予定の事業所様には、「大学はインターンシップ研修に学生を送るのか」、「インターンシップ研修を対面で行ってよいのか」、「リモートに切り替えてもよいのか」等々の疑問をお持ちではとコンソインターンシップ部会（以下、コンソ部会と略す。）では考えました。そこで、8月10日、17日と2度にわたり、コンソ部会としての方針、すなわち、「コンソ部会としては、インターンシップ研修はいかなる状況になろうと実施する、対面での研修が難しければ、リモートでの研修を取り入れて頂きたい、あるいは延期して実施して頂きたい、また、研修の途中でこれ以上はリモートも延期も難しい場合は、課題レポートを課して頂きたい」などを、メールにて、より詳細な対応マニュアルを添えて、受入事業所の担当者様に送らせて頂きました。そのうえで、お問い合わせやご相談に個別に対応させて頂きました。

その結果、多くの受入れ事業所様が対面での研修を予定通り実施して頂き、約半数の事業所様では、対面に加えてリモートによる研修も取り入れるなど工夫して実施して頂けました。そして、8月中旬から下旬の新規感染者数のピークに多くの研修が重なったにも拘わらず、感染者が出ることなく３３９名もの学生がインターンシップ研修を修了することができました。受入を頂いた事業所の皆様には、心より御礼を申し上げる次第です。夏期休暇終了後の学生へのアンケート調査では、研修の満足度も例年と遜色ないばかりか、受入事業所様が最大限の感染防止への配慮をして受け入れてくださったこと、またリモートによる研修プログラムを急遽作成して実施してくださったことなどへの感謝の言葉が溢れていました。

ただ、今後に向けての課題がないわけではありません。新型コロナウィルス感染症の拡大も含め予期せぬ状況が起ころうとも、インターンシップ研修が中止になることは避けたいと思料します。対面方式の研修が最も望ましいのですが、研修を止めないためには、リモート研修等を上手く活用して対面研修に近い効果の研修をできるように準備することが有効と思料されます。併せて、研修生を受け入れによる書類記入等のご負担を軽くすることも必要と思料されます。コンソ部会では、２０２１年度後半、受入事業所様へのアンケートや拡大懇談会での意見交換も踏まえ、これらの課題の改善に取り組んできました。来年度以降、改善したインターンシップBCPの施行、リモート研修の効果的な方法の共有など、実施したいと考えています。企業・団体の皆様には、今後とも、研修生の受入れとともに、「インターンシップ研修を止めない」ための改善への取り組みにもご協力を頂けますようお願い申し上げます。

これまでの経緯

1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学（愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学）が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しました。しかし、設立当初からの目的や地域の各組織との連携関係を変えることなく、2013年度からは聖カタリナ大学も加え、5大学で発展的に事業を展開しています。

1997年
「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」が発表される

2003年
「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」設立

2009年
「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行

2013年
聖カタリナ大学も加え愛媛県内5大学として発展的に事業を展開

インターンシップへの取り組み

愛媛大学

2021年度のインターンシップ研修は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。学生らを受け入れてくださいました企業・団体様におかれましては、感染防止に十分配慮いただき、状況によってはリモートでの対応を含めた研修を実施いただきました。また8月中旬には、愛媛大学インターンシップBCPに則り、インターンシップ研修を中止せざるを得ない状況となり、急遽の変更にご対応をいただきました。事前の準備から研修期間中を通して、多大なご尽力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

学生がインターンシップを安心した環境で実施できるように、教職員で協議を重ねて進めてまいりました。インターンシップガイダンスや事前教育をビデオ遠隔受講型で実施し、感染防止に対する指導も行った後、学生らを送り出しました。本年度愛媛大学からは、275名の学生を61事業所の企業・団体様に受け入れていただきました。

愛媛大学では、インターンシップは社会へ移行する学生の成長を支える重要な教育活動として位置づけられ、学生の参加人数は年々増加し、これまで累積で3050人以上の学生がコンソーシアムえひめによるインターンシップを経験しました。一方、インターンシップ終了後の企業・団体様のアンケート結果からは、学生のインターンシップ参加への目標の明確化や企業研究の不足など課題も浮かび上がっています。これらを踏まえ、学生がしっかりと準備ができた状態でインターンシップへ参加できるよう、現在事前教育の内容について再検討を進めています。

今後、自然災害など不測の事態によって、急遽研修の中止が発生する場合等を想定した大学間での対応について整理し、企業・団体様と円滑な連携が取れるよう体制を構築してまいります。引き続き、ご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

松山大学

松山大学におけるインターンシップ教育の取り組みは、経営学部において1995年に学生自らが研修受け入れ先と受け入れ交渉を行い、職場研修を行う方式により開始されました。また、経済学部では1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーらるぽけっと」の会員企業を中心とした受け入れ先に学生を派遣し研修を行う方式により開始され、その後制度が統合され、2002年からは文系学部すべてで実施される全学部共通のプログラムになりました。

その後、研修を含む一連のインターンシップ関係科目は、他のキャリア教育科目を生み出すなど、就職に強い松山大学の基盤を一層盤石なものにするのに貢献をしています。とりわけ、就職と直結はしない「インターンシップ研修」は、大学では実施できない「大学の正式の教育プログラム」として貴重な教育の機会をとなっています。

本学のインターンシップ関係科目は、前期に事前講義として「インターンシップ活用Ⅰ」（全15回の講義）、夏季休暇期間を利用した「インターンシップ研修」（実働30時間以上、もしくは実働60時間以上の実務研修）、さらに後期の事後講義として「インターンシップ活用Ⅱ」（全15回の講義）という形で実施しております。毎年、研修を受けた学生の代表による研修報告会を開催するとともに、各受け入れ先の研修報告として冊子にまとめています。

さて、松山大学では、2021年度は、コロナ禍にあって、178名の学生が「インターンシップ研修」を受講させて頂きました。受入中止になった学生が53名いますが、新型コロナウィルス感染症のピークに重なった中で、このような大人数の教育活動が可能となったのも、ひとえに研修生を受け入れてくださった事業所・団体様の多大なるご協力があったればこそです。インターンシップにご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。現在はキャリア支援課において、インターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えております。2012年度から2014年度まで取り組んだ文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」では、卒業生や愛媛県内企業等を対象とした産業界ニーズに応える"汎用的能力"に関するアンケートや在学生・卒業生の実態調査を実施いたしました。それらの結果を踏まえ、学生の主体性や課題発見力強化のためさまざまなキャリア支援プログラムに挑戦しています。

また、教育課程内においてもキャリア教育の取組を行っています。女子大学では、様々な社会人を講師に招き、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、1年次からインターンシップ研修やPBLを取り入れ初年次教育を強化しました。短期大学では、従来から職業に直結する教育を展開して参りました。中でも現代ビジネス学科では、1年次からインターンシップ研修を含む多様なビジネス体験を取り入れた科目を設置し、ビジネス社会に必要な知識・技能の習得を目指した体系的なカリキュラムを展開しています。

このように女子大学・短期大学ともに、全学を挙げてインターンシップ研修に取り組み、事前・事後指導の拡充に努めております。2021年度の研修では、研修直前に新型コロナ感染症拡大の為、遠隔や日程変更などの急なご対応を受入企業・団体の皆様にお願いすることとなり、大学側におけるコロナ禍のインターンシップ研修実施について反省する点が浮き彫りとなりました。
12月に開催された「拡大懇談会」では、コロナ禍におけるインターンシップ研修の実施について受入企業・団体の皆様がさまざまな新しい取り組みに挑戦されている事例等をお聞きすることができ、今後のインターンシップ研修のあり方を考えるうえで大変参考になりました。
困難な状況が続くことが予想されますが、受入企業・団体の皆様におかれましては、引き続き"働くことの意味・やりがい"などについてもご指導賜り、今後とも主体的に考え行動できる学生の育成に変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学は、2013年度より大学コンソーシアムえひめのインターンシップ・プログラムに正式に参加させていただいておりますが、2020年度は新型コロナ感染拡大の状況に鑑みて参加を見合わせました。そのため2021年度は、本学にとってコロナ禍で初めて迎えた実習となりました。

本学では、就職課を中心とした様々なプログラムに加え、正課科目においてインターンシップ研修のための事前指導を行い、学生が社会人として求められる知識やビジネスマナーを習得できるよう、支援を行っています。具体的な授業内容としては、学科担当教員によるキャリア意識の形成や職業観に関する講義・指導、外部講師によるマナー講習など、就職活動を意識した講義を行っています。本学の支援の特徴は、小規模校の強みを活かした、学科教員による"顔の見える"個別指導にあります。研修後には、各自の学びを『インターンシップ研修報告書』として冊子にまとめ、後学期に研修報告会（2021年度は事業所関係者のご招待を控え学内関係者のみ参加）を開催し、成果の共有と振り返り、学科教員からのフィードバックを行っています。

2021年度は、2学科で30名（人間社会学科27名、社会福祉学科3名）を19事業所に受け入れていただきました。参加学生は、研修を通じて働くことの厳しさや責任の重さ、自身の甘さを痛感したり、他大学の学生から刺激を受けたりしながら、大きく成長することができました。コロナ禍での研修のありがたさ、予測不能の事態に対処する難しさや覚悟なども感じていたようです。それぞれが就職活動を行い社会に出ていくにあたって、自らの課題や方向性を考える貴重な機会となりました。大学側も至らない点が多々ある中、学生を受け入れて下さった事業所のみなさまには、研修実施のご尽力と学生へのあたたかいご指導を賜り、本当にありがとうございました。次年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度 インターンシップ研修報告

今年度は新型コロナウイルスの影響により、事業計画説明会や合同説明会などのイベントを全てオンラインミーティングで実施しました。
研修本番である8月には第5波が到来し、受入企業・団体様に研修中止や実施方法の変更などの対応をしていただくことになりました。

事業計画説明会（オンラインで実施）

オンラインでの開催ということもあってか、例年より多い８５の企業・団体様にご参加いただくことができました。最初に事業の方針やプログラムを説明。その後は、2021年度の事業計画と初めて運用される新システムについて説明を行い、コンソーシアムえひめの5大学が実施するインターンシップへの理解を深めていただきました。

合同説明会（オンラインで実施）

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学に在籍する約５００名の学生が参加。複数のブースにおいて時間割ごとに参加企業が説明を行い、学生がログインする方法で実施しました。

研修の様子

拡大懇談会（オンラインで実施）

その年のインターンシップ事業を総括するため、毎年この時期に開催しています。本年度における5大学の研修状況や反省点を報告した後、オンラインブースに分かれてインターンシップ部会が提案した３つの論点について話し合いを行い、今後の研修プログラムに役立てていくことになりました。

参加者による意見の一部を紹介します。

（１）インターンシップＢＣＰの確立について
　　インターンシップ部会で統一された判断基準を作成してほしい。
（２）リモート研修の向上策
　　どういった内容で他企業が実施したか成功例を聞いてみたい。
（３）各種事務手続きの生産性向上
　　提出書類のデジタル化を進めてほしい。

3月23日（水）

4月【上旬】
インターンシップ受入プログラム合同説明会への参加の有無とインターンシップ研修生受入プログラム内容に関するアンケート送付

4月【中旬】
アンケート等の締め切り

5月29日（土）

6月【下旬】
学生の研修申込書を大学から研修希望先へ送付

7月【上旬】
研修希望先での面接

8～9月
インターンシップ研修（合計339名が対面やオンラインなどで研修を受ける）

9月【下旬】
インターンシップ研修生受入企業へのアンケート（回収数54／配布数97）

12月9日（木）

参加者の声

愛媛大学　法文学部　人文社会学科 人文学履修コース　3年　出渕（いずぶち）　愛実（まなみ）　研修先　重松建設株式会社

私は、4つの目標を持ってインターンシップに参加しました。まず、仕事に対する意識等アルバイトとの違いを学ぶこと。次に、職業理解を深めることで現在不足している能力や今後必要な能力を把握すること。そして、志望業界を理解し、就職活動の軸を固めること。最後に、当時資格取得を目標としていた宅地建物取引士の知識や資格がどのように仕事に活かされているかを学ぶことです。

私は賃貸仲介業務を主として不動産業界を広く志望していたため、建設業の視点からも業界理解を深めたいと思い、重松建設株式会社様のインターンシップ参加を希望しました。5日間の研修で大きく3つの業務を体験させていただきました。書類作成や物件の管理、そしてお客様対応を体験した不動産部では、宅地建物取引士資格学習範囲の項目も丁寧に教えて頂き、理解が深まりました。住宅営業部では、建築途中の物件の作業確認やブログの更新を体験しました。さらに、週末には新築物件完成見学会のイベント運営の補助をさせていただきました。

研修を通して、設定した4つの目標はほぼ達成し、さらに仕事に対する認識を深めることができました。今回、多様な業務を体験させていただきましたが、お客様の幸せと会社の利益を共に追求し、仕事の質にこだわったプロ意識は全ての業務で一貫されており、アルバイトとの大きな違いであると感じました。資格については、どのように仕事に活かされているのか学ぶことで資格の必要性を強く感じ、取得のためのモチベーションの向上につながった結果、無事合格することができました。

また、仕事が人生の充実や存在意義を見出すことに繋がるということを学び、何のために働くのか、どのように人の役に立ちたいのかといった将来のビジョンを考える良い経験になりました。これは、近い将来の就職活動の為だけでなく、今後の人生についても考える貴重な学びでした。今回得た学びを今後の行動にしっかり活かしていこうと思います。

松山大学　法学部 法学科　2年　渡邉（わたなべ）　海都（かいと）　研修先　今治市役所

私がインターンシップに参加した目的は3つあります。1つ目は職場を知るためです。2つ目は仕事を知るためです。3つ目は、インターンシップ研修に参加することによって社会人と学生の違いを知ろうと思ったからです。よく「いつまでも学生気分でいるな」と注意されているシーンを目にします。また、報告書などを見ていると学生と社会人の差を知ることが出来たといったようなことが書かれていることが多くあり、それらから具体的に学生と社会人は何が異なるのかが個人的に気になり答えを出したいと思いました。

将来今治市役所で働きたいと考えていることが今回のインターンシップ研修先に今治市役所を選んだ理由です。生まれ育った今治を今よりもっといい環境にするための案を出すなどのお手伝いをしたり、将来自分が働きたい場所がどのような環境なのかを、今治市役所の人と直接話し、自らの目で見て感じたいと思いました。また、今後今治市役所に勤めるとなった際に自分に足りないものがあってはいけないと思い、それを知るためにも今治市役所をインターンシップ研修先として選択しました。

5日間のインターンシップ研修の中で、特に印象に残った話は「自分の仕事ではなくても、休日を使ってでも仕事に関係する現場を見に行って現場の人たちと話したり直接状況を見たりする」という話で能動的に動くことやつながりの大切さを学べました。今回の研修では6つ以上の部署の方と活動する機会を得ることが出来、グループディスカッションや話をお聞きすることを通して今治について詳しく現状把握をしたり課題解決案を出したり出来ました。オンラインでの開催だったので実際の職場を見て回ることは出来ませんでしたが、その代わりに対面では1つの部署でしか仕事が出来ないはずが今回は多くの部署と関わることが出来ました。

目標の一つであった仕事や職場を知ることが達成でき、社会人と学生の違いにも自分なりの答えとして「責任」なのではないかという結論を出せました。今回の研修を通して社会人として働く今治市役所の方々の姿を見て、自分の未来のビジョンの一つを作ることが出来ました。

松山東雲女子大学　人文科学部　心理子ども学科 心理福祉専攻　3年　永山（ながやま）　里桜（りお）　研修先　月心グループ 株式会社公益社

私がインターンシップ研修に参加を希望した理由は2つあります。1つ目は、実際に職場の雰囲気に触れることで、社会への理解を深めることです。自分の身で体験することで社会人としての礼儀や考え方を身に付け、今後に生かしていきたいと思いました。2つ目は、他大学の学生や企業の方々と交流することです。今まで得ることができなかった考え方や物の見方を身に付け、自分自身の視野を広げ、思考の柔軟性を高めることが目的です。

研修では、葬儀場やブライダルハウスの見学、経営感覚を身につけるためのマネジメントゲームや、学生同士でのグループワーク、レポート作成などをさせていただきました。研修の中で、グループワークを行うことで、自分の強みは他人の意見を引き出したり、話を聞き共感したりする「傾聴力」であると感じました。この強みを伸ばしていくと共に、自分からも新たなアイデアを発信していけるようになりたいと感じました。そして将来、周りに対して新しい提案をしていけるようになりたいと思います。

普段の学生生活の中では、同学年の、同じ学問を学んでいる人としか関わることができず、無意識的に偏った視点で物事を見るようになっていたかもしれません。今回の研修の中で、企業の方々や他大学の学生との意見交換を通し、年齢や性別、学部などの違いにより、それぞれ異なった様々な考え方や視点を知ることができました。研修前と比べて、柔らかい頭と広い視野を持って物事をとらえられるようになったと感じています。

この研修をとおして、私は「働くこと・社会人になるということ」＝「人のために動くこと」だと考えました。学生の間は、親や先生などに「～してもらう」という場面が多いですが、社会人になり働き始めると、「お客様に満足していただくため」、「会社を継続させるため」など、自分の持っている能力を、周りのために使っていくことが大切だと考えました。たくさんの方々と深くかかわることができる今回の研修は、自分をとても成長させてくれ、参加してよかったと強く感じています。

松山東雲短期大学　現代ビジネス学科　1年　渡邊（わたなべ）　菜花（なのは）　研修先　株式会社 ありがとうサービス

私が「ありがとうサービス」様のインターンシップに参加した理由は、地元の企業が地域のためにどのような事業を展開されているのかを知りたかったからです。研修内容は、西条市にある本谷温泉館の魅力を伝え、集客力アップのためのコンテンツを考えるというのを主に行いました。ただアイデアを発表するだけでなく、聞き手に納得してもらうためには具体的な数値や根拠がなければならず、データ集めが大変でした。パワーポイントを作成して発表をしました。他大学の方は先輩ばかりだったため、とても参考になるアドバイスをいただき、何とか発表資料を完成させることができました。他にも、鈍川温泉館の見学、ビジュアライズ、就活講座、夢スタジアムの見学をしました。温泉館には定期的に来館してくつろいでいらっしゃる方々がいらして、皆さんの癒しの場になっていると感じられました。夢スタジアムでは実際に地元のサッカーチームを応援している方々を拝見し、スポーツ振興を通して地域活性化につながっていることを実感しました。そうした多様な取組みのすべてに社員の方々が関わっていらっしゃることに業務の幅を感じることができました。特に印象に残っている研修は、ビジュアライズです。自分の目標や願望を書き出し、イラストで表現して、発表しました。口に出すことで本当に実現できる気がしてくるし、それを実現させるにはどうしたらいいのかということまで考えることができました。

このように今回のインターンシップ研修では、人前で発表をするという場面が多くありました。研修当初は、緊張して声が小さく、暗くなったり、うつむき加減で話してしまったりしていました。でも、これではいけないと思い直し、最終日のプレゼンテーションでは「思い切って」取組みました。精一杯取り組んだプレゼンテーションは、高い評価を受けることができ、大変嬉しく思いました。自分でもできる！！どちらかというと引っ込み思案だった自分の新しい一面に出会えたような気分でした。そうした「思い切って」やってみようという気持ちをこれからの短大生活においても持ち続けたいと思います。インターンシップ研修に参加して、本当に良かったです。5日間という短い期間でしたが、自分自身の成長を少しだけ感じることができました。同じ研修生として参加されていた他大学の学生さんたちからも大いに刺激を受け、勉強になりました。私は、将来、社会に貢献するために"働き"たいと思います。貢献できるような人材になるためにも、学生時代に今回のような経験を積極的に積んでいきたいと思います。

聖カタリナ大学　人間健康福祉学部 人間社会学科　竹宮（たけみや）　彩香（あやか）　研修先　トヨタL&F西四国株式会社

私は、就職活動前にコミュニケーション能力やプレゼン能力などの社会人スキル、マナーをできるだけ身につけ、自分自身を成長させることを目的としていました。またこの研修先は、愛媛・高知の生活基盤を支えている物流業界に多くのフォークリフトを納入していることを知り、地元で活躍できることに魅力を感じたために志望しました。

実際の研修では、フォークリフトの営業で、お客様の多くの要望から最適なフォークリフトを選ぶことの難しさを体験したり、適性検査を通して、自分にはバイタリティが足りないことを気づかされたりしました。また、スタッフの方達との交流会では積極的に質問をしたり、プレゼン発表の際には褒めていただけたことで話し方や資料の作成方法をさらに工夫していきたいとも思いました。そして何より、今回の研修は、自分が今後幸せに働いていくために何を大切にしていくべきかを考える良いきっかけとなりました。それはスタッフの方達が、一貫して働く上での幸福を感じる条件についてお話をしてくださったからです。中でも一番印象に残った言葉は、利他への貢献使命を知って働く人は幸せ度が高いということです。自分のためだけでなく他者の幸福も願うことが、長く仕事を続けるために必要な条件の1つになることを実感した5日間でした。

研修生受け入れ企業担当者 アンケート集計結果から

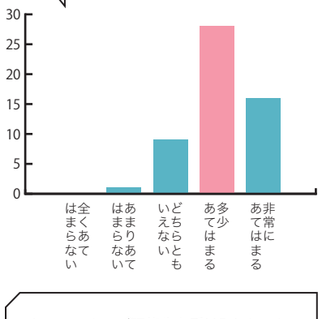
今後のインターンシッププログラムをより良くしていくため、今年度受入れ表明のあった９７企業・団体を対象として、２０２１年度１０月にアンケート調査を実施しました。回答数は５４企業・団体でした。

インターンシップ研修生を受け入れていただき、得られた効果としては「学生の就業意識が向上した」「指導にあたった社員が成長した」「大学や学生に自社の認知度を高められた」など本事業の趣旨をご理解いただきつつ、受入が組織の活性化やＰＲにも貢献していると、約８割方企業・団体のみなさまに感じていただいております。

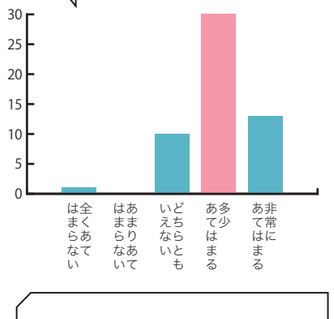
その反面、「学生の意見や提案が仕事の改善につながった」点については明確な傾向が見えてきません。また、「繁忙期の人員確保の役割を果たしている」が「全くあてはまらない」と「あまりあてはまらない」とする回答の多さから、企業・団体のみなさまが、学生や若手の指導育成という観点で取り組んでくださっていることがわかります。

困難な状況の中、研修生を受け入れていただいた企業・団体の大部分がそのメリットを感じていただいており、「今後も継続して研修生を受け入れたい」と約８割が意向を示していただいたことは、本事業への理解が進み、定着しつつあると考えております。

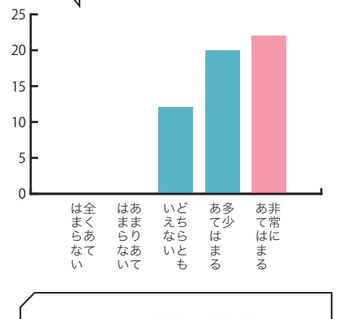
インターンシップ研修を通して
学生の就業意識が向上した



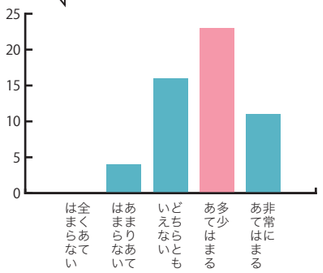
指導にあたった
社員が成長した



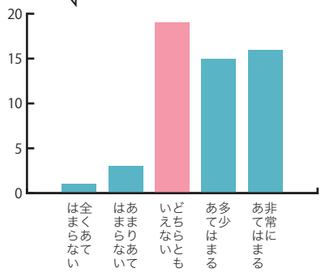
大学や学生に
自社の認知度を高められた



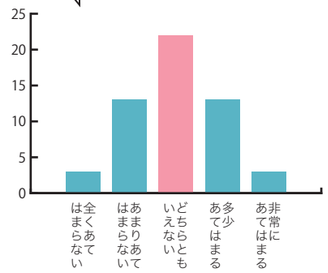
インターンシップ研修を受け入れたことで
職場が活性化した



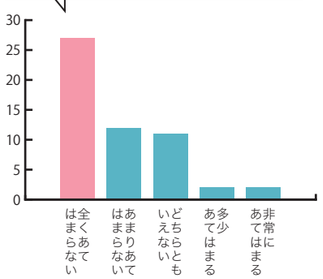
5大学との交流が深化した



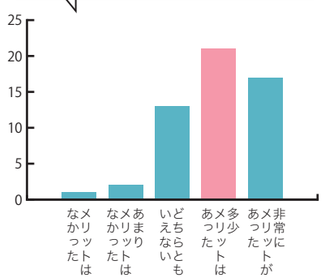
学生の意見や提案が
職場や仕事の改善につながった



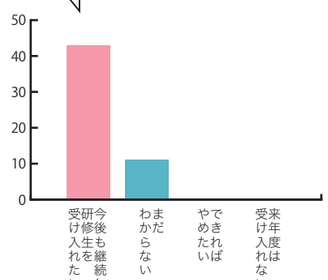
インターンシップ研修生の受け入れは
繁忙期の人員確保の役割
を果たしている



今年度のインターンシップ研修生の
受け入れに関する
総合的な評価を5段階で
評価してください



インターンシップに対する
今後の取り組みについて
あてはまるものを1つ選んでください



受入企業・団体一覧（順不同）

1 あけはまシーサイドサンパーク株式会社
2 株式会社ありがとうサービス
3 一宮運輸株式会社
4 今治市役所　人事課
5 伊予市役所
6 イヨスイ株式会社
7 SMBC日興証券株式会社
8 (株)エヌ・ピー・シー
9 愛媛医療生活協同組合
10 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
11 愛媛県
12 愛媛県警察本部
13 一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構（ジョブカフェ愛ｗｏｒｋ）
14 愛媛トヨタ自動車株式会社
15 愛媛トヨペット株式会社
16 愛媛労働局
17 有限会社遠藤青汁
18 株式会社オートクチュール
19 株式会社大屋(ドラッグストアmac)
20 株式会社　伊予鉄高島屋
21 株式会社　昆布森
22 株式会社　トヨタレンタリース西四国
23 (株)西条産業情報支援センター
24 株式会社　フェローシステム
25 株式会社　フジ
26 株式会社　宮嶋組
27 株式会社ガリレオコーポレーション
28 株式会社クック・チャム四国
29 NPO法人西条まちづくり応援団
30 自衛隊愛媛地方協力本部
31 重松建設株式会社
32 四国通建株式会社
33 学校法人松山東雲学園
34 シブヤ精機株式会社
35 ジャスティン株式会社
36 (株)ジョイ・アート（坊っちゃん劇場）
37 株式会社スイッチカンパニー
38 セキ株式会社
39 株式会社セブンスター
40 社会福祉法人　丹原福祉会
41 株式会社地域法人無茶々園
42 ツウテック株式会社
43 月心グループ　株式会社公益社
44 株式会社トップエフォート
45 社会福祉法人砥部寿会
46 トヨタＬ＆Ｆ西四国　株式会社
47 トヨタカローラ愛媛　株式会社
48 株式会社日本エイジェント
49 濵田農園
50 株式会社ビオトープ
51 株式会社ビスタワークス研究所
52 特定非営利活動法人ぶうしすてむ
53 株式会社ホテル椿館
54 株式会社ホテル八千代
55 松山市役所
56 松山赤十字病院
57 松山ヤクルト販売株式会社
58 株式会社三好鉄工所
59 有限会社 愛媛ヒアリングエイド（えひめ補聴器センター）
60 株式会社ゆうぼく
61 有限会社ラポール
62 特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ
63 NPO法人いよココロザシ大学

協力団体

大学コンソーシアムえひめインターンシップ・プログラムは一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構（ジョブカフェ愛work）の協力を得て運営しています。